

平将門退治圖會六

~ 13
3295
6



門 八 13
藏 3295
卷 6

源 亦 流 不 息 混 入

亦 在 此 際 豈 相 似

源 亦 將 統 長

嘉 永 庚 戌 夏 日

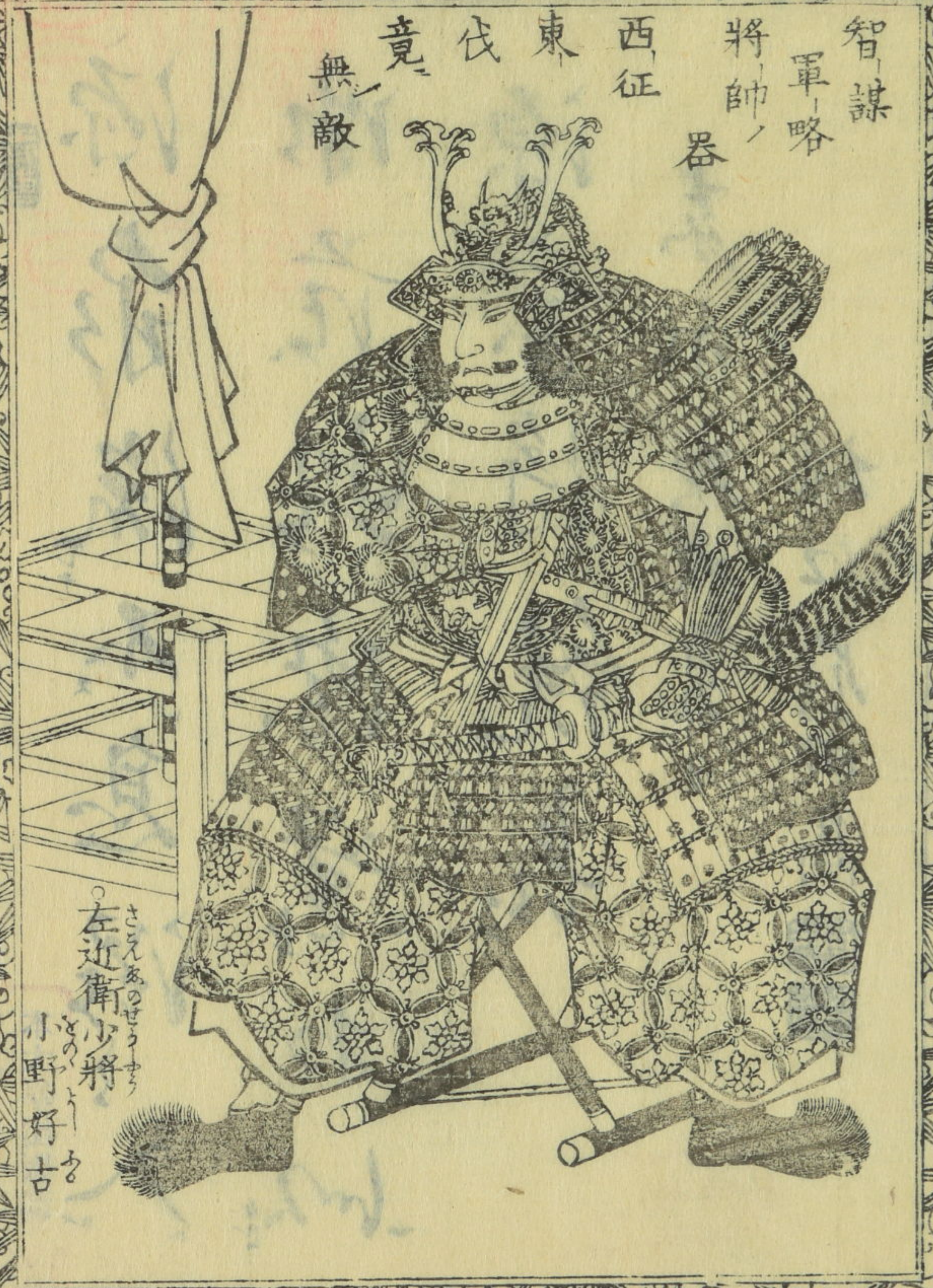
楓 江 岩 田 雋



大正十年八月廿九日
本大學出版部 贈

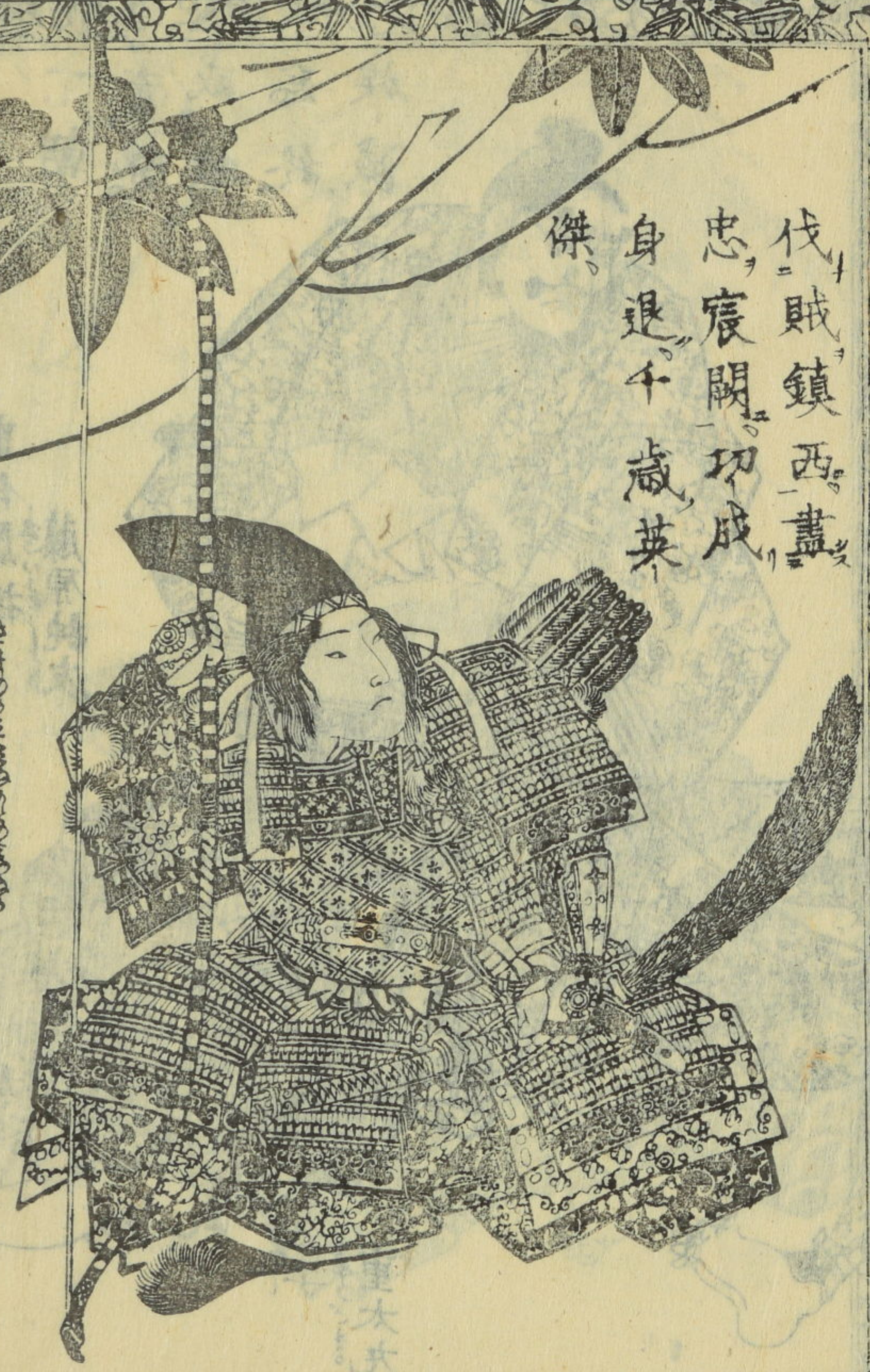
卷之五

智謀
軍略
將帥
器
西征
東伐
竟
無敵



左近衛少將
小野好古

伐賊鎮西盡
忠宸闕功成
身退千歲英傑



左馬頭源滿仲



膂力勇悍
最有餘
委身非其
人惜哉

伊賀壽
太郎

丁朝
奮勢
威積
惡終
族滅



前伊豫掾
藤原純友

子
重太丸

計策
求巧
還拙
歌舞
未火
身六



○権亮
藤原純素

嬋娟
宛轉
蛾眉
再顧
傾國
古人
不欺



○白拍子
松崎の子代

平將門退治圖會下帙目錄

○卷之五

第六 讚州高松合戰 附 鳥嶽落城義直討死

第十九 防長所々合戰 附 船木輝義諂護

第二十 純友太宰府攻 附 公彦血戰勇猛

第二十一 追捕使西海下向 附 朝倉の寄手敗走

第二十二 官軍樋田の城を攻 附 康俊智謀技樋田城

○卷之六

第三十三 純友兄弟出張 附 豊前國所々合戰

第三十四 黑崎合戰同退口 附 左馬助滿仲殿

第三十五 豊前菱形山落城 附 純友兄弟不和

第三十六 筑後國柳川城攻 附 右衛門佐純衆最期

○卷之七

第三十七 滿仲黑崎の城攻 附 伊賀壽次郎討死

第三十八 純素和睦を乞ふ 附 滿仲計策純素を討

第三十九 伊賀壽太郎の行方 附 純友宰府落純正最期

第四十 征西將軍進發 附 春實慶幸賊船を焚

○卷之八

第四十一 伊賀壽稻村の戦死 附 純友從類誅小伏を

第卅二

諸大將旣落勸賞

附 藤原忠文卒去并辨

第卅三

亡卒の爲中法會修する

附 日藏の誓言萬卒塔婆造る

第卅四

村上帝御即位

附 天神を北野小祀る

○卷之九

第卅五

太上大臣忠平薨也

附 後撰和歌集を撰む

第卅六

文珠九殿誕生

附 經基王薨去

第卅七

大内炎上

附 村上帝崩御

第卅八

西宮殿隱謀

附 滿仲義時注進

第卅九

隱謀の族罪小伏也

附 滿仲以下諸士勸賞目次終

平將門退治圖會五

起天慶三年三月 至同年七月

第十八

讚劬高松の合戦

附

鳥嶽落城義直討死

人多くして天小勝天定ましく人小勝と申包胥が金言ん恁而西海の
 賊徒第六日と逐て威風震ひ勢ひ強大も容易の制しごとく既小左衛門佐
 藤原倫實の山陽道の討たんとてあつたりし事備前國釜淵小
 左衛門尉の爲小左衛門尉とて竟小行方ありしと因て純友の如く遂威を
 震ひ四國中國の武士郷民大半彼小屬ひくその下知被受る中阿波小
 左衛門尉の性来賢智の人ありしや勢ひ及て賊の爲小教て野外小曝す
 背きを辛うの草賊の麾下とありしを入志を勵ますまの敗將倫實小逢ひ

俱小計て廻り。不日小賊迄て責アと。その準備頗り乏し。のこ早もて
 注進するものありし。然らば釜嶋の敗幸等が。臆病神の解は。是は方より
 寄べり。とてその用意を遠く。忽地進突し。りける。倫實圓風。是を
 此方より。も出張あり。敵の船より。登る所。取籠と封べり。其勢
 除騎。濱の圓高松。小陣取て。今や。遅し。と待蒐り。かゝる伊豫。縁地。友の音
 除艘の兵船。と掃へ。阿波。國へ。向ひ。敵。高松。小在。と。相。直。と。潜。あ
 磯辺の方。と。見。と。せ。その勢。都合。四五千騎。と。三箇。所。小。控。へ。され。が。の。み
 め。の。做。ぬ。小。勢。と。い。せ。一。控。ふる。と。飛。下。り。関。の。声。と。作。り。け。て。三
 三。小。の。か。る。宿。軍。の。後。と。期。し。る。と。あ。且。些。の。騒。ぐ。ば。で。十。方。より。矢。襖。と
 作り。雨。の。如。く。小。射。り。し。る。賊。迄。等。と。且。隊。率。と。も。せ。た。鐵。板。傾。け。楯。と。つ。た。と。
 墓地。小。打。と。蒐。る。或。右。衛。門。佐。倫。實。の。先。途。の。恥。辱。張。雪。ぐ。んと。え。八百。餘。騎。の

勢。と。真。丸。小。備。へ。年。例。高。松。の。松。原。小。陣。取。て。在。り。ける。時。分。が。た。と。不。知。せ
 傳。え。實。小。旋。風。の。容。子。の。如。く。敵。の。横。合。と。り。切。り。か。る。賊。迄。の。備。と。多。事。し。て
 倫。實。が。軍。ふ。り。と。り。合。追。つ。て。一。の。戦。ひ。け。る。宿。軍。の。威。勢。尖。く。し。て。あ。り。く
 當。り。と。け。と。と。回。り。と。て。倫。實。の。も。と。と。追。つ。て。遊。び。纏。り。て。人。馬。の
 息。を。休。む。を。在。り。ける。賊。迄。の。荒。を。入。換。え。叫。き。喚。ん。で。責。か。る。圓。風
 の。執。事。接。間。文。治。行。直。先。を。と。率。て。卒。と。を。受。受。り。東。西。小。馳。せ。南。北。小。切。ま。す。
 大。物。り。と。小。戦。へ。賊。迄。等。か。し。色。め。た。て。汀。の。方。又。退。く。打。り。寄。り。の。將
 推。亮。純。素。伊。斐。た。味。方。の。奴。原。多。い。也。自。ら。一。軍。と。敵。味。方。の。目。と。見。え。と
 せ。と。伊。賀。寿。兄。弟。焼。山。父。も。の。地。一。騎。當。子。の。逞。兵。勝。て。千。五。百。餘。騎。勝。つ
 方。圓。風。と。接。間。が。陣。と。目。多。き。墓地。小。責。り。し。宿。軍。も。橋。小。知。て。傳。え。一。旦。の
 退。り。挑。え。戦。ひ。り。れ。と。入。換。る。と。荒。々。の。あ。け。と。心。の。跡。を。は。る。む。と。の。た

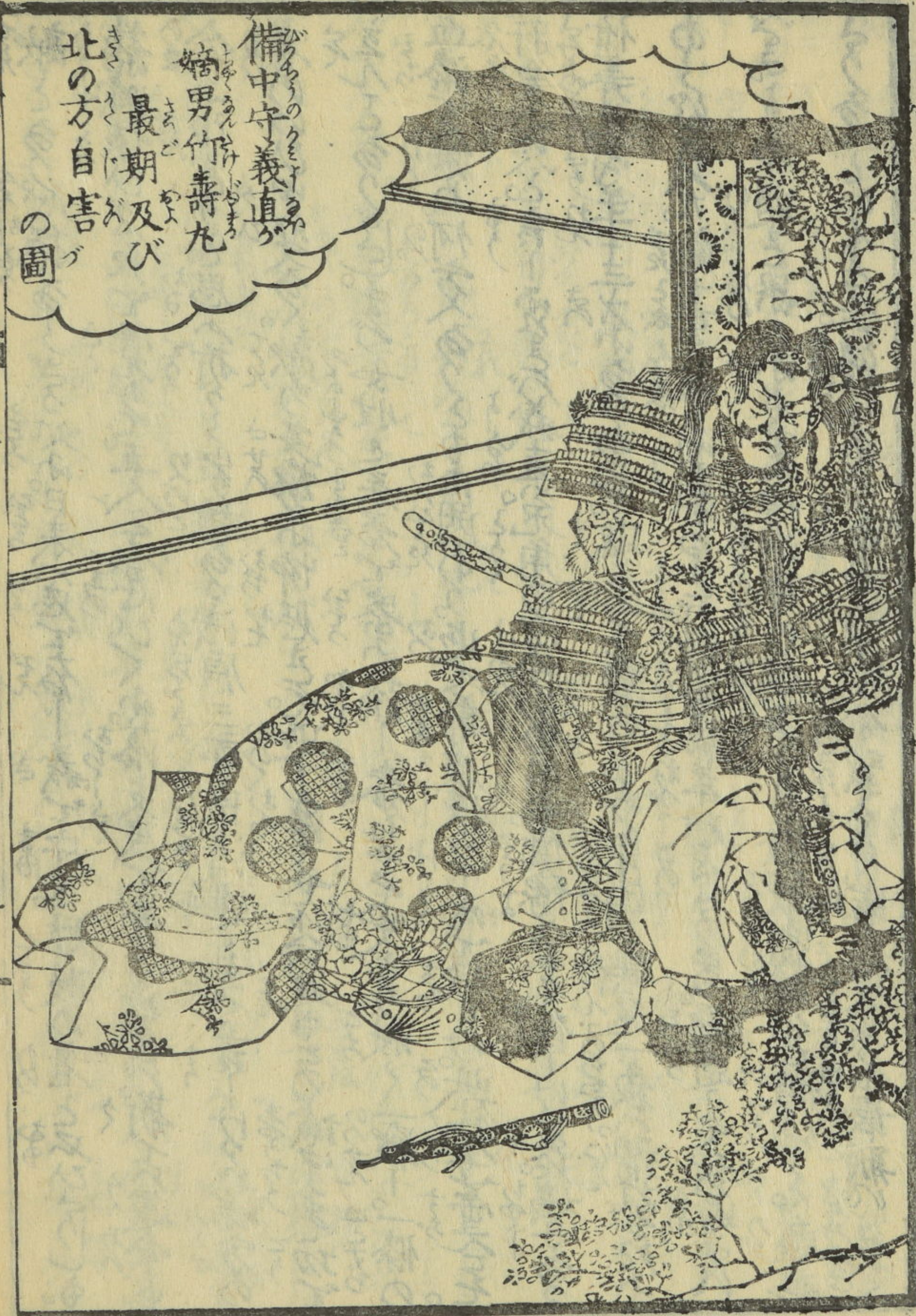
其身金銀の中あつて言ふ各々深麻負はる。河波と後波の境なる中、
 さへ退きけり。その時賊は頻りに進み、宿軍一人も慮りなき。討果さるるに
 然るを遂にせしむ。とて神佛の擁護あり。斯ては法門仇倫實河波
 國風へ申ふ引きて敗卒を修め、麻負の療養をど加えける。同日三月十四日
 の薄暮、小當國の住人梶尾右馬允資宗一族郎等千餘騎を率て馳進し
 たり。はるる將斜るるもあぢ。斯ては賊を制する。何の難き事や
 あつんと緒軍勇せり。明正二月十五日。東雲の明中、ぬ小開の
 声山川の音き。勢の多し、知ぬ。さも怖るる。國えり。破驚敵の考せ
 るる。故意と荒をて藪蔭に隠し、軍勢あつて討てゆく。會款けり。純友は
 二、三、小葛根とて備て礼して切ま。折々、梶尾右馬允千餘騎を三隊に分
 群が敵の機命より、葛地小突入けり。敵は荒をの加りしを、声もあ

つて色りた。是れ、知法左衛門佐倫實、七百餘騎を雁行し、敵の後を
 遮りて前後より、挾と責む。純友が兵狼狽。かく前後を圍まれて、處あり
 のやせん。と戦ふ。き、勢ある。我れ、引退せし。純友馬上に踏出り。ひひと
 者共々。さへ荒をの加りし。敵の智さる。小勢入。久く下知され。崩れ
 たる。癖され。是等の。と耳も。右往左往。小教礼して討つ。其數を
 知る。仲友心の猛。とも。ま。奈何とも。詮方あり。山に退き。が。重傷を
 慕ひ来りて。既討らる。足けり。焼山次郎太子源内父子主従。を防矢
 射けり。その間、小落仲へ。八、鶴より。船も。備前の國へ。取りけり。柳純友
 其始。將門と謀。下。合せ。彼尾邊路。生を責登ら。此方へ。山崎へ。押して。時、小
 帝都。七、七、と。後。と。約せり。と。東國の軍。竟。被。是。同。月。廿。音。ま。
 將門が。首。京都。都。ふ。より。梶。本。ふ。けり。と。同。より。ま。づ。勢。力。を。落。し。時。の

慶化して侯ふ如く合勇七郎大夫純行先達にて安藝の國へ奔向せしが軍利の心
 這ふ討まされて四月廿七日小釜島へ引返す。同右濱門佐純衆も伊豫の國へ
 出ひし。あはれも這々討まされ。始め二千餘騎ありしも僅三百騎の
 人数減率して是故りし。あはれも月と月と見合せて安き心のありしが。一族
 守令て商議とす。畢竟所へ人数を分ち出せば。元勢ありて毎
 度その利減失へ。是より軍勢を一折し。常國と領を争ふ事
 長門國と靡け。次第九列へ責入て。國を併吞し。討ま来る所
 敵城候を便利多し。あはれも一決し。さうも軍勢の着到とす
 今と是を調ふ。掃磨備前。あ國の勢令せて七千餘騎あり。後まて不
 足ふ。あはれも前在。門佐純衆。春宮權亮純素。二千五百餘騎を相討て
 先陣とす。純友五千餘騎。中軍。小佐備中の國へ奔向とす。そのく。島國島ヶ

嶽へ備中も義直の弟。誠を。まづ是を責へと。四月朔日の卯の刻。嶽の
 前後三三程。竹圍の如く。あはれも。機関の声。矢叫びの音。天地山川。此時小忽
 地亡滅失ぬ。と。思ふ。むろ。不夥く。衆と責つ。け。嶽中弱る。氣色もた。く。
 或ひ。大石。大木。て。投。落。防。ぎ。戦。ふ。と。二。日。一。夜。さ。ら。小。屋。す。り。容。の。多。け。ま。寄。る。は
 まづ。責。に。て。其。げ。十五。六。町。引。下。り。て。人。馬。の。足。を。休。む。折。々。翌。二。日。の。早。夫。ふ。の。木
 戸。を。鋼。と。し。一。兩。ま。を。その。勢。九。を。五。百。騎。斗。り。ひ。く。と。馳。ま。て。寄。る。は。是。を。討。ま。す。て
 城。中。の。奴。系。が。死。の。狂。ひ。打。扮。す。る。を。ま。と。取。締。て。入。り。餘。さ。び。討。て。捨。よ。と。這。む
 如。か。何。か。の。り。け。ん。の。軍。無。備。の。方。を。う。ち。討。ひ。矢。一。筋。切。て。放。し。堪。て。脱。ぐ
 阿。容。と。す。と。降。人。小。を。出。さ。り。け。し。純。友。大。小。飲。ひ。て。西。海。道。征。伐。の。名。物。を。殊。小。を
 事。へ。と。降。人。等。を。饗。養。す。是。より。隨。分。粉。骨。さ。す。と。功。ふ。よ。め。と。賞。す。べ。し。と。
 大。將。顔。を。ひ。け。ら。う。ま。と。小。備。中。守。義。直。へ。さ。う。も。と。あ。ひ。ら。軍。勢。の。地。小

備中守義直が
嫡男竹壽丸
最期及び
北の方自害の
圖



敵と多し心懸ありさう如ふ日未へ忠を存し義を守り。臆服の者と必ひしりしも。
 籍職恨ひご死を覚りて五人之忍びく小落支度とありけり。斯く運命も
 今小限とありと思ふ折る家隷多し。浅原三郎宗清進と出て言へり。味方の
 者のいひ甲斐多し。敵の多勢小怖恐とて。逃く落さるは公建由ら。誠中先功せ
 まんところなり。まづ女性とそ君を密小落し。審らせそ。交あり。故く一戦。一條の
 血路と索り。何方ありとも由用あり。逃て前度使の下向と候ら。此社辱と誓えそ。
 肝要いへと言へり。義直免角の沉吟あり。猶豫あり。在りける。嫡子あり
 竹青丸。年十三。小あり。あめが。進と出て言へり。宗清が異見一。敵の細れ。たふ
 あつて。いふ。敵十重六重小圍。いふ。恨令初年。は者。うも。見道。て。安通。さ
 べま。ゆ。通と果る。ふも。せ。備中守の嫡子。うも。の。敵。小。勢。多。し。微。少。く。も。道。れ
 うも。い。い。ま。い。の。後。は。そ。の。船。の。う。す。わ。今。敵。く。自。害。し。て。入。る。最。期。に。若。く

忍一。あ。ぬ。か。う。あ。る。ま。は。し。と。意。の。果。は。備。中。守。を。抜。く。早。く。咽。へ。突。え。候。小。伏。し。あ。い。の。
 是。ぞ。見。あ。け。り。母。君。の。嗟。や。と。む。ろ。推。あ。り。の。き。空。き。骸。を。揺。動。し。懐。乳。あ。り。竹。青。丸
 と。一。ゆ。り。あ。め。の。見。と。一。産。ま。し。軍。斐。あ。り。て。能。く。斯。の。計。り。の。き。然。れ。あ。れ
 奉。の。體。孫。ど。も。長。士。の。見。と。一。産。ま。し。軍。斐。あ。り。て。能。く。斯。の。計。り。の。き。然。れ。あ。れ
 どの音。い。何。小。累。殺。の。指。あ。り。て。漸。く。儲。け。極。み。の。死。に。候。も。同。ぬ。小。病。は。あ
 ても死ぬ。と。う。自。ら。死。小。伏。せ。と。い。ふ。ま。も。前。世。の。業。因。り。と。雲。時。歎。き。え。在。り。け。り。
 心。づ。き。て。顔。あ。り。の。げ。候。あ。り。の。と。死。り。き。後。と。先。づ。り。身。あ。り。ぬ。候。敵。の。心。を。新
 不。覺。と。あり。去。来。諸。共。お。も。て。そ。り。て。死。出。の。山。路。を。頼。あ。ん。と。の。ひ。り。竹。青。丸。が。又。小。批
 どりて。ま。も。今。く。喉。へ。突。え。命。被。と。伏。て。息。絶。ら。り。義。直。の。當。下。ま。を。強。然。と。し
 て。在。り。け。り。忽。地。覺。示。と。う。ち。笑。ひ。斯。の。こ。を。備。中。守。義。直。が。妻。子。を。れ。れ。心。違。の
 あり。去。る。か。う。此。後。小。腹。切。と。い。ふ。敵。小。寄。ら。し。結。腹。切。と。い。ふ。敵。は。ま。を。勇。あ。り。た。小
 候。ら。り。た。れ。は。是。より。直。小。打。と。い。ふ。敵。の。大。將。と。引。組。で。繋。く。討。死。す。は。意。と。思。え

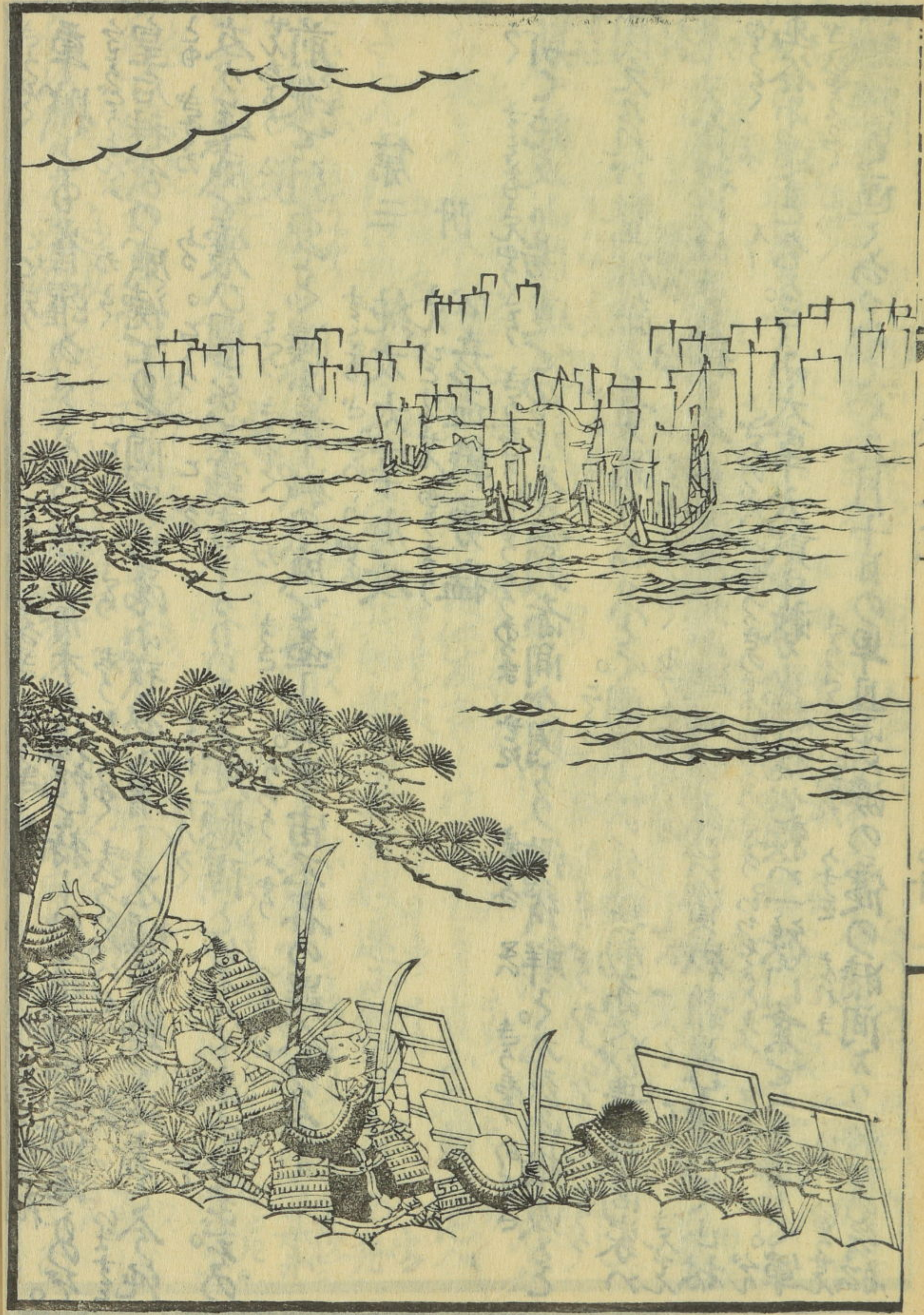
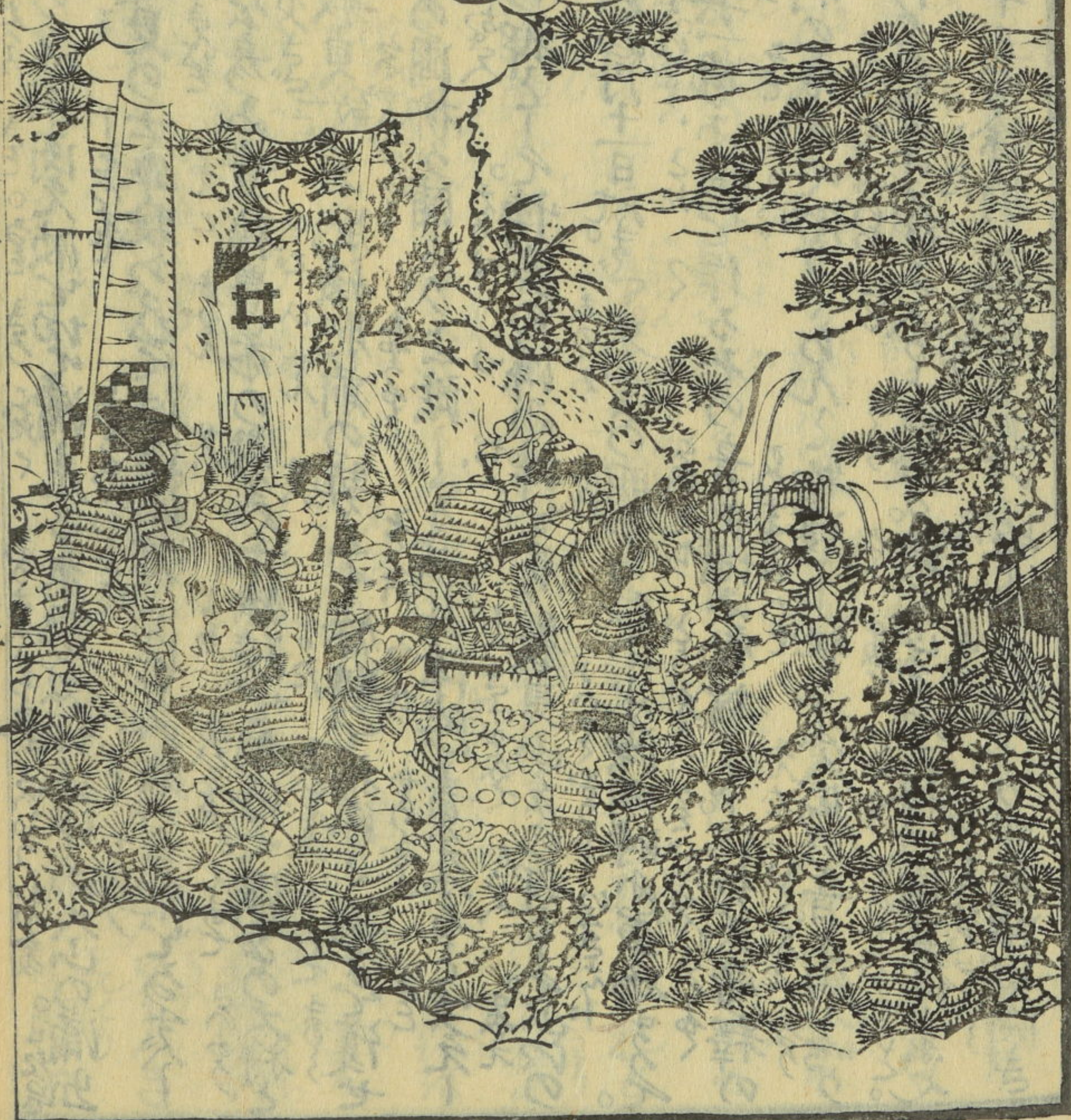
馬を繋ぎし。味方の人々固め九を今先の先従と考ふる。大河を憑ぎて敵を
 防ぎ。大河を越え、敵を殺し、何れも軍の利ありとする。河を越え、敵を利あり。
 そのく、その河を渡りし、逆流巖を渡り、味方心を一致し、渡らば、敵を
 ぎらん。某まづ、瀬踏をすべし。かく、後より、続き、此河の先陣を、安室、高負
 小の、後日、小違、乱あり、さす。といひ、敵を、さす。この大河、馬を、綱と、打合、し、けれ、ば、
 小の、此、後、道、程、あり、と、さす。敵、交、し、陣、を、取、組、ま、し、て、打、入、り、逆、寒、水、の、あ、ま、は、
 為、小、雲、時、干、漚、と、あり、み、け、り。頼、種、が、軍、勢、の、向、ひ、の、岸、中、に、あ、ま、は、破、敵、馬、敵、の、
 川、を、渡、す、と、矢、頃、に、あ、ま、は、河、中、に、射、て、落、せ、と、敵、と、敵、を、待、死、す、り、数、
 万、の、軍、兵、水、を、渡、り、中、流、へ、到、り、と、さ、す。さ、し、由、列、し、逆、波、の、馬、を、歸、せ、と、さ、す。
 思、ひ、を、河、下、へ、十、五、丈、を、り。推、流、さ、り、と、い、え、け、り。主、の、馬、も、逆、流、あり、と、浮、沈、し、ぬ、
 漂、ふ、在、さ、る。と、い、濟、へ、と、の、程、と、さ、す。軍、勢、一、同、小、島、と、い、は、し、と、死、の、將、基、倒、し、

如く、推流さるもの、千餘人、小舟に、積、軍、勢、あり、と、い、は、し、り、救、え、と、さ、す。小、
 舟、の、岸、に、向、ひ、の、岸、に、一、同、小、舟、の、板、と、い、ち、敵、を、加、何、れ、の、先、陣、見、事、あり、晴、
 みの、勇、士、の、挙、動、あり、と、一、度、小、舟、と、笑、ひ、け、り。純、友、心、易、く、と、思、ひ、と、輪、方、の、
 この大河を、歩、み、あ、り、渡、ら、ん、と、い、は、し、る。と、敵、過、ぎ、は、お、し、と、後、に、逆、流、さ、す、
 や、と、い、逆、郷、の、在、家、を、毀、ち、真、の、敵、十、の、後、と、組、ま、ぬ、是、を、心、易、く、と、勇、進、し、て、
 河、を、す、知、小、先、小、進、し、二、艘、の、後、を、岸、に、向、く、程、の、り、小、舟、を、り、け、ん、敵、を、さ、す、
 大、纜、を、ま、さ、り、破、落、し、と、碎、け、教、へ、し、と、い、は、し、る。と、小、舟、を、り、二、百、騎、を、且、の、水、中、へ、
 推、流、さ、り、二、回、三、回、見、透、し、と、進、む、と、い、は、し、る。と、控、へ、り、敵、純、友、純、素、等、の、下、知、を、得、え、て、
 後、に、組、ま、せ、這、回、の、中、に、小、舟、を、着、け、り、斯、て、表、陣、入、れ、と、大、矢、を、散、り、鏑、
 削、り、挑、し、戦、ひ、し、り、と、い、は、し、る。と、固、来、衆、寡、敵、が、朝、倉、の、城、へ、引、退、く、跡、を、
 追、て、城、へ、押、し、息、を、絶、せ、責、め、し、り、と、い、は、し、る。と、元、來、堅、固、の、構、へ、り、城、を、さ、す、

其年冬多旱の案内者ありしに遠の結り彼如の切所思ひありし討て
 出蒐ちりしに崩上成ひ大石城投りて丸右の溪へ墜し落し日く百人
 麻負死せりさびとひとひ純友執るの辨せ禮て香くから小旗抱せり
 日せ送らる心依その期せ失ふべしと此如の然る者せ止り軍勢小旗
 下たその身同月廿三日。後門四へち城をて。桓國の城を攻ける小旗を浦と大内
 父康俊の此節在来とら小在。郎從主守りてわりしが。賊信頼り小
 旗ひ来り保ちざりて衆評既小一決と。せまづその城を
 重ねて軍勢を廻り。その辱せ雪ん出たると。一夜浦の城を拔出給
 雲雀山せらち城を初若と守護か。小浦の方へ移りけり。其月の薄暮小旗と高圓の信
 則らの城小入り交り。諸軍勇威せ祝しける。其月の薄暮小旗と高圓の信
 入舟木莊有輝義一族と相具しく。種々の酒穀を齎して。桓國の城へ來りし

まづ彼物と天將及び精軍勢を披露せし。是れ純友ありし討ひく。其の威徳
 矢の深しは。あは知意く。卒の風小信如く。就中ら小旗と高圓の要害
 ありし。僅一戦中も及まざり。此ま小入りと。是も愛さし。故小旗と高圓の薄
 禮せりて。謂しなる。禮し。演け。純友は。満面喜悅の。色城
 彰。吾大旗を。取ひ。其の。始り。責さる。小旗。招さる。小旗。集る。と。偏小天
 運。小旗。然る。其。方。來着。の。條。満。是。せり。殊。小旗。美酒。佳。散。張
 馳。則。軍。兵。皆。小旗。領。獎。え。吾。も。あ。と。一。獻。敵。べし。你。も。相。俵。せ。致。さ。る。べし
 是。頼。て。舟。木。が。馳。り。酒。穀。を。ひ。く。酒。宴。を。催。せ。舟。木。輝。義。の。種。小
 進。後。の。領。都。て。天下。小旗。者。兵。多。う。小旗。人。て。股。ま。の。徳。天地
 等。一。と。小旗。霸。者。の。必。權。を。以。く。も。あ。は。威。を。入。小旗。鳥。辭。を。る
 喻。へ。小旗。猫。鼠。を。股。を。の。小旗。差。の。角。を。逐。を。食。の。

太宰大貳
橘公頼
一族を
集會て
純友が
水軍と
戦ふ圖



卷之五

の十

港板で並べ成く声の遙小園え波で切て満来る系勢忽地海中め大山の瀾出
る小異ありと。遠見の士率馳あつて注進洛澤しりし。然るを配せり
とて命勇大膳大夫公彦小豊後豊前之勢二千餘騎を相添て後々の大将と
あし。嫡子九条進敷貞敏一作 肥後肥前の勢二千餘騎を相添て搦を獲せ
り。斯る如小豊前和の酒柳が浦より上陸し。賊兵陸地を責来ると安え
く。則公彦の海をの押とて博多の津小津とぞ。敦貞山をの押とて山
底小津取らり。明とて六月十日に東雲の明やらぬ。水陸同時小軍物まら
敵味方數方の軍兵一勢小園を作る。その音天地小動揺し。上六梵天帝釋の
宮中。下八堅牢捺利の底まで響く。いと物凄し。馳ちて久馬の音海小鳴り
こゝろて坤油も輝け。忽地小大池小入くと散る。斯てし。大將の權亮純素と
九京進敷貞が二千五百餘騎と對意し。追つ返しの戦ひ。忽死賊軍内ま

靡きて是を四途路ゆえ。且六敦貞麾せり。揮て敵へ色り。此園
外さび。真一文字小刻く通り。大将と討笛あやと。下知小後と。右殿原侍り。や
忽と響て並べ逃り。逐ふと十町なり。敵はあく散れし。且先ゆと敗れ。も
かろ如小傍あり。樹林の影をより鼓で鳴り。兩で作りて見はし。伏兵を
五六百騎敷貞と後陣へ切てから。後陣の兵心得り。と責戦ふと列下れど。
先陣は下北を逐て。後陣小敵あると成る。ぞ。援る兵あり。し。右佐九往の
蒐る。且と幸府せ。し。引返す。時分り。んと權亮純素相國の天鼓鼓張
鳴り。返せ者どもと下知す。且。その采幣小隨ひて。今日も穢くも逃散る。
軍兵一団小取て。し。右と響て。尤と靡け。電光石火と切結び。右大将敦貞討
と。んと歩く。や。小討せ。と防ぎ。戦ふ。勇威尋常あり。し。且。入交る。き
荒る。も。あ。け。日。六。散く。小戦ひ。勞む。心。あ。ふ。む。し。引返す。大膳大夫公彦小初り

濱のまはれ戦ひ殊ふ女繋くも午の刻に下りませ。二十餘度の圍ひは双方の軍
 兵勞むけれ敵の船ふらち来て遙の沖に破て卸し味方の陸に陣をたし馬の
 兵隊はめりける。宰府の方で見入ると軍に破れぬと覺しそ。二十餘箇所
 兵火の煙り騰くとこも昇りけり。公彦のち驚き斬ていへし。山の上も
 覺束多のよと取て入。其容で見入ると菊地松浦の軍勢とて斬て遺し
 いた宰府とてさへ退きあひ残る兵あり。大將の退きあひを頼と遺
 して何うせん。跡に慕ふて引退く公彦の補心許り。馬は早めて打せあふ。糟
 谷庄司次郎恒雅權ふら。兵隊の如く馬を走らせり。矢と見たり
 内りと落下り。大將の糸の腕き。搦手の軍被と敵の宰府に充満て屋形の
 兵火の房小焼。大將の前後の方へは開きいへ。是より宰府への消息あふ。
 敵遠間も多く屯し。多くは通り渡り。是より舟もはる。

寄るひ肥前路へは通りあせり。と惣大將の命。此と言え。為ふこそ衆着
 る。いあれと。まじし。おられ。公彦の逐一小崗の。惣大將の命。さうとあら。奈何小
 敵大勢あて入。換り。うと。そ。一應宰府の容。も。さ。て。落。さ。ん。言。畢。し。
 鳥合の草賊何多騎集り。うと。何れどの。事。う。あ。る。ま。さ。い。ど。莫。被。つ。く。打
 通らんと。馬を進め。あ。あ。ぞ。の。後。最。然。る。べ。と。そ。各。馬。の。鼻。と。並。べ。搦。は。搦。心
 馳ける。ま。程。あ。く。宰。府。小。到。り。つ。ま。見。渡。し。め。を。敵。の。軍。勢。悠。心。熾。盛。の。者
 ども。あ。ま。び。民。屋。商。家。へ。押。入。り。ん。賊。室。で。掠。り。たり。或。は。美。女。の。名。を。擧。ぐ。ん
 娘。せん。と。欲。して。一。所。小。集。る。る。あ。け。は。思。ひ。の。外。小。妨。あ。く。宰。府。の。燒。跡。を
 彼。方。此。方。と。見。巡。り。あ。ふ。小。昨。日。ま。も。金。殿。朱。門。覺。て。双。べ。建。連。ね。ら。る。樓。閣。も。
 珠。の。階。瑪。瑙。の。欄。干。水。精。の。礎。も。金。一。片。の。煙。と。消。え。ん。その。形。斗。り。も。残。り
 ぬ。ふ。誰。と。あ。ら。む。紅。火。の。下。小。白。骨。の。残。止。り。在。さ。る。視。る。ふ。哀。の。先。が。ち。て。

安樂寺の切通し。その他所にて見圍りぬふ思ひを涙の先きの公吉及も
 惘然として多きりぞその思ひければも。落ぬひし人の死身のよもれ違
 やく。いざ然ばくこの出跡を慕ひ一折ふると馬の鼻をひた向ふ折し敵の
 こゝろ見つけし。落残りの葉武者ども。名残惜ふ未立退むのを討取て高名
 せん。とありより五十騎八十騎。彼知より百騎二百騎をいれと。押取巻き勝下を
 ちと切てかゝる。大将公彦馬を扱へそれ遠奴を切て捨よと。下知も侯は武者
 第多勢の中へ刻々入縦横を盡し。落るむ多幸の案内者あり。此所の
 小路彼所の阻道思ひ掛る所より切て出たの颯とひく。活りしやと賊軍の
 さしも大勢ありとのへども防ぎ度で失ひて。討るものも少あらず。四途路
 めのく見へけるが。稍小勢の果ありて叫き喚び責るやどふ公彦真中。小原路
 りして既小危く見えけるゆぞ。あつく身で捐命を惜まばある。死幸に難倒し

衝と馳抜て後方にて視まは。二百騎斗りぞ計しける。さしども勇威懾ぬは
 敵の思ひえ近より。遠矢小を射りけし。當下原田筑後前司師俊
 大将の馬の前小懸塞り。何時まで斯て戦ひぬを。天下の安危今日小限
 りむ。益の戦ひ小金鉄の郎俊数多討せん。便る所ありぬを。一先
 小関さわのく後の日小責あるも遅まふわらじと。再三練めまうしぬれを。
 公彦実小もと曉りのひ遺る軍兵を引具して。流後の方へ落りし。敵は
 討策小罹らんうと思ひ思ひて。続て進んともせうられ。難あり。揚めひけし

第廿一 追捕使西海へ下向

附 朝倉の寄を敗走

愆而前伊豫掾純友へ太宰府へ入替りて。軍勢の多分を。後へざる者て
 責ける程小成ひぬ。勢あり。落るもあり。或ひは時の権威小怖と。摩下小

屬する者も多く。今九州二島のうち。維あつてまざるものありし。法西の
大将とありし心地あり。奢て究り遊興小耽り。只管我意をのぞき挙動ける。却説
都史へ貞盛秀郷の武功小依て東國速小平均あり。諸民勇威と称へる。小
まご西海小運流起りて万民を掠奪し。中國四國小名あり。武士も或へ討死
或ひへ落しせ。或ひへ逆流小属後ひて是を制する者もあらず。追捕とて下向
ありし。左衛門佐倫実も。打負て筋在て知れず。その他異説奇聞を傳えて。
其沙汰のそぞ置く。更小安堵の思ひあり。且つ重ねて追捕使て下さる。此
とて其人を擇ぶ。右近衛少将左衛門佐小野好古。智謀の閑えあり。小因て則
逆小の大將軍と。散位武及源経基王。周来武勇の誉あり。日外藤原
忠文小副て東國へ向りし。既小将門誅小伏し。東國靜謐小及びし。小
駿河國より飯洛あり。未ど都小在り。且つ是を擲る。大將軍小空あり

らま不日小進發あり。べきよ。詔命の下り。且つお將謹て領賞あり。
則軍勢の着到て録さる。まづ宗徒の人々。右衛門尉藤原慶幸同春実
左馬助源満仲。兵部丞同満政。兵庫允同満季。志麻守守同満快。上野揚同
満生。縫殿助同満重。出羽目同満頼。山城守為克。河波守小野保衡。七
物。わとて諸國の大老。十餘人。その勢。都令六万餘騎。六月廿四日。小都
て西海道へ進發あり。突小雄く。行装あり。粵攝政忠平公。情慮
は。けり。昔苟くも朝庭の重臣とて。万機を掌の如。連年天下。穩あり。小
兵甲止時あり。頗る震懼。て脱し。なる。身の不徳。小あり。不如速小攝政を
辞して。隠遁せん。あと思ひ。表を。けり。小主と深く惜む。ひ。更小以許
容あり。けり。
忠平公の昭宣公の四男あり。貞信
公と諡す。小一條大政大臣とのみ

周小の元を本朝攝政の起原人皇三十四代 推古天皇の御宇。

厩戸皇子で温觴と云ふ。攝政小試の攝政在位の攝政の両品
あり。試の攝政と云ふ。唐の堯の時舜攝政。舜の時禹攝政。禹の時
位の攝政と云ふ。殷太甲の時伊尹攝政。周成王の時周公且攝政。是れ
と云ふ。攝の説文小撮也。録也。廣韻小兼也。政の論語小孔子曰政の正也
とありて天下の政道の正き。攝兼撮る義と云ふ。職原鈔聞書小云
云云。本朝亦雖有試攝政。多置干幼帝。女帝之時常有関白。
推古帝御宇。御姪聖德太子攝政也。以御女見銷皇女嫁于太
子。雖爲女帝之攝政亦是試攝政也。帝堯以娥皇女英嫁舜。
以如令爲攝政也。然太子先干推古帝薨。故不登帝位也。五
十六代清和帝九歳而即位。藤原基經攝政。此在位攝政也。忠
仁公是也。云云とあり。此書の林氏春齋先生の講筵小於之。幸庵

分宜の強記せる所ありと。序辭小以り。寛文年間印本の印本也。是等を
益の弁ある。童蒙の流小攝政の意とあり。老成心あり。
斯く追捕使順風小纜と解く。播磨國室の津小着岸。夫より陸路旅
徑て安藝國嚴島小請奉幣。是より周防長門の敵と攻め。山陽
南海の勢と屬て九國の地へ渡りんと。評定一決。あひひ。今度追捕使の
下向て因て高岡小及む。播磨美作備前備中。備後安藝伯耆の勢
或ひ山林小隠と忍び。時の至る候候けり。族とて馳参。ト云
霞の如くふあり。ふけり。干茲去る。四月上旬朝倉の城と圍。攻め。城の
大将秦頼種少一の弱らむ。防ぎし。く。と。草壁良連を遣し
む。純友の九死と進發せし。より。草壁良連術計を更て。連日攻め。ひ。と。
激兵望く守りぬ。と。今ふ於て。落居せ。から。如小西討使大軍を率て下向と

其。斯。く。長。兵。懸。り。り。免。去。来。引。と。と。の。程。と。を。わ。き。元。来。鳥。合。の。鳴。辭。乃
 者。の。ま。ご。敵。の。旗。も。え。え。ぬ。ふ。今。一。の。獲。ひ。来。り。一。如。く。鞍。系。げ。る。馬。小。鞭。で。あ。が
 口。で。持。し。一。天。と。忘。も。遣。へ。者。且。と。も。甲。で。落。し。一。吾。ま。た。ゆ。と。扱。わ。と。小。武。以
 本。の。根。巖。角。小。馬。の。蹄。で。蹴。り。へ。一。と。落。と。墓。多。く。あ。り。の。あり。或。は。溪。へ。傳。ひ
 落。と。五。體。未。塵。と。あ。す。も。あ。つ。と。遠。く。小。逃。ま。る。城。中。の。あ。ま。と。河。復。て
 驚。破。賊。軍。怖。れ。つ。れ。と。震。ひ。慄。き。引。さ。る。と。名。這。て。追。討。と。の。日。来。の
 將。念。を。晴。せ。よ。と。大。將。真。先。小。旗。を。進。り。喚。き。叫。ん。と。墓。か。の。人。を。軍。兵
 と。ど。う。の。勇。ま。さ。し。一。回。小。吐。と。兩。で。作。り。搦。小。搦。を。逆。辺。づ。れ。大。音。声。小
 吹。り。け。る。方。々。數。日。の。對。陣。小。差。る。餐。食。も。系。ら。せ。成。敗。り。小。か。意。を。く
 覺。ゆ。れ。は。遠。り。の。為。參。着。せ。り。當。國。の。鍛。冶。が。徹。方。後。が。と。進。せ。一。賞
 就。あ。と。と。款。き。と。雨。霰。と。射。懸。る。小。群。を。と。敵。あ。れ。ば。一。筋。の。仇。矢。と。く。

矢。を。小。二。三。十。騎。射。落。さ。し。將。基。倒。小。倒。る。且。小。食。見。懲。し。と。逸。早。出。し
 逃。ん。と。す。る。の。と。一。合。せ。防。が。ん。と。す。る。あ。は。城。兵。の。猶。勝。小。家。で。成。ひ。切
 伏。せ。雜。倒。し。當。り。を。僥。倖。切。ま。る。小。負。死。人。數。を。知。る。と。人。馬。派。が。未。折
 重。り。秋。あ。る。あ。く。小。章。の。本。の。紅。糸。の。色。で。彰。へ。せ。り。大。將。周。防。小。賴。種。の
 鐘。で。鳴。し。と。軍。を。引。揚。除。り。長。途。を。益。入。と。頼。小。敵。の。陣。不。小。取。送。し
 一。る。武。具。馬。具。を。分。捕。さ。し。勝。開。あ。げ。朝。倉。の。城。へ。帰。り。け。る。

第廿三 官軍樋田の城を攻

附 康俊智謀拔樋田城

去。程。小。兩。將。の。周。防。の。國。府。小。着。る。周。防。小。祭。賴。種。の。四。千。餘。騎。を。引。卒
 去。て。旅。館。へ。参。向。し。一。り。け。且。小。兩。將。頼。小。對。面。の。水。を。籠。城。の。房。を。懸。し
 一。え。敵。の。動。靜。地。理。も。悉。く。問。の。小。賴。種。に。派。承。り。頼。田。の。城。へ。圍。圍。す

遙小引下りて打せり。去程小宿軍の城の四方より圍圍と作りて責鬼
 まは城の中へ此も駭かす十方の高橋あり。激と捕へて射すあり。寄きと
 急須車ともせは。送前本城に除く。か一埃の際まで責はけて。戦流んと扱
 りの事も。昔滑りりり山と望を漏れ。兎角する間小敵中より。或は又を轉
 り。或はひの巻下り小射るなり。寄きと大敵僻易し。班員死にあり。その日
 申の下刻及んで。暫く陣へ引退く。時分なり。と大内公怒と城を見若
 赤た遣て着して軍勢小交り。家隸中山を次でして。大将小打合せ。百餘騎を
 一折小渡り。旗ともまて。笠符ゆり。浴くと。城小向ふ双方を殺せんと
 只ども。敵とも味方とも分りて。要時固踏て在けるなり。小遊子の城の中
 うち登り。城の方より対ひて。あま九州宰府より。常城へ後援の兵あり
 りれる。筑前國の住人妻々羅新助宗秀あり。と名もあはれ。一流の旗を

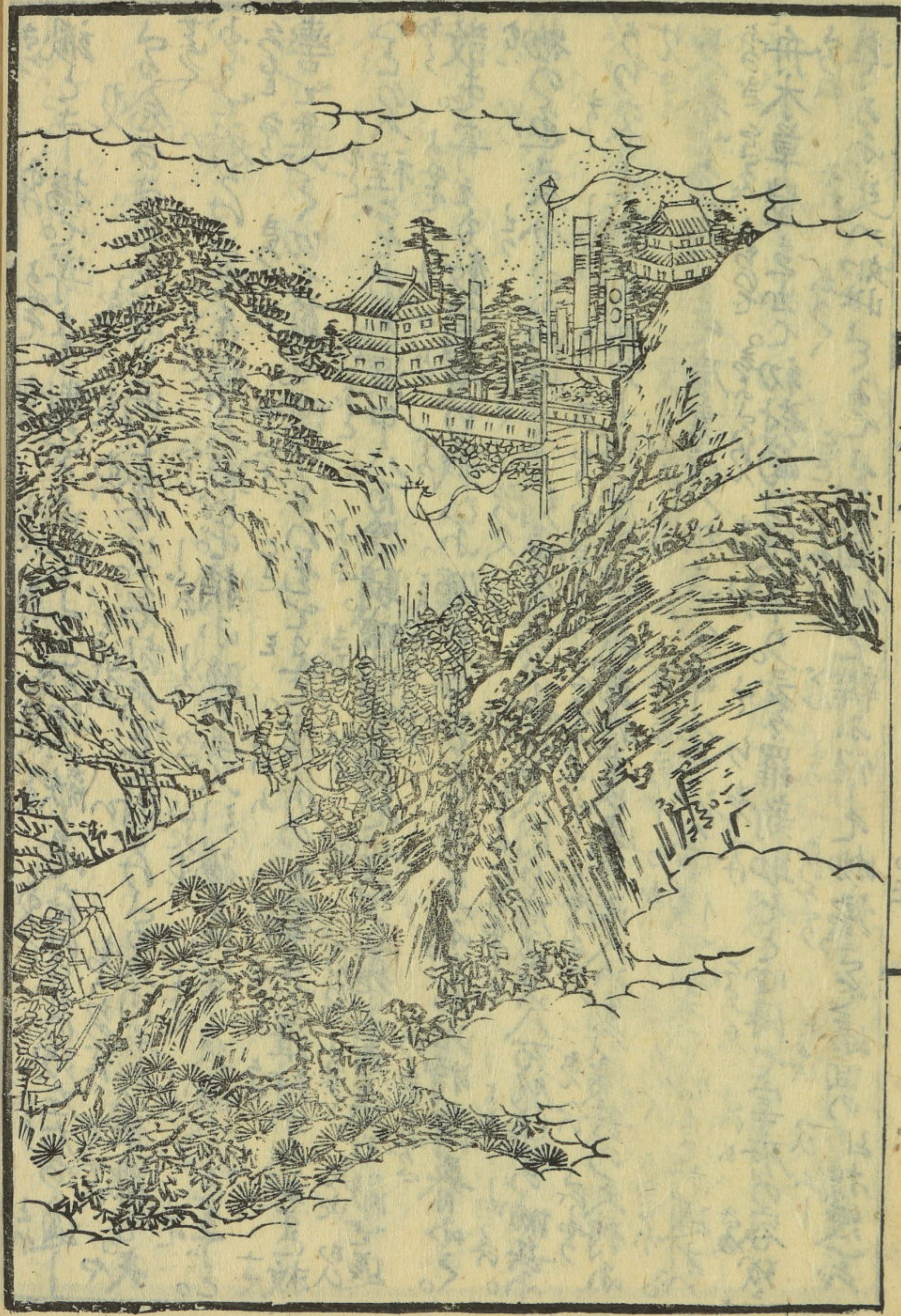
颯とさ揚て。寄きと對ひて。用て。上ま。扱。敵え。在ける。の。城。左右。の。通
 する。念。さ。ま。國。用。て。合。せ。り。と。名。れ。矢。を。射。け。り。大。内。公。の。軍。勢。も。矢
 か。と。射。け。さ。を。痛。く。戦。ひ。を。稍。小。城。の。方。へ。引。揚。且。寄。き。と。城。へ。入。り。ま。し。と。
 響。と。並。べ。く。切。て。落。る。城。中。の。是。と。り。て。宰。府。の。加。勢。多。く。羅。討。す。る。を。救
 へ。この。入。程。を。あ。は。し。混。甲。八。百。餘。騎。城。門。を。用。て。叫。び。と。鬼。出。寄。来。る。敵。を。追
 散。を。寄。き。も。數。箇。度。の。戦。ひ。小。陣。の。勇。ま。さ。る。ふ。と。名。此。時。薄。暮。ぬ。く。
 物の。色。ま。へ。分。り。し。は。除。く。と。引。退。く。お。お。於。て。大。内。公。康。俊。へ。八。百。餘。騎。の。城。兵。小
 り。あ。交。り。て。城。へ。入。る。斯。く。大。將。舟。木。輝。義。軍。陣。を。良。連。の。兩。人。の。ま。づ。援。兵。の。大。將。小
 見。参。て。あ。す。べ。と。て。廣。書。院。へ。招。き。入。る。中。山。公。次。の。威。儀。を。刷。衣。の。袴。と。打。通。れ。ば。
 舟。木。草。壁。ま。出。て。初。對。面。の。禮。畢。り。妻。々。羅。新。助。と。心。得。て。宰。府。の。容。城
 尋。る。ふ。是。の。如。此。と。も。て。是。の。筒。様。と。辨。小。佐。と。物。像。を。遠。回。の。地。捕。使。と



大内介
康俊
計策を以て
福田の城を
落す

卷之五

〇九一



卷之五

九州へ入る。大將自ら二萬騎を率。とて入出浪のめ其先陣で賜
り。先登一之敵を逐散。高名小備へんと。實は援魁一之敵を
の容ふせえ。小多勢あり。とて中あぐら。遠路を凌いで。此地に
者共。宰府の討を向ふ。心中心中恐怖。抱く。其虚を討て。是を
千のツも過る。あの圍を解んと。堂を指が。思ふ。今宵不意で打
敵の勇氣を摧く。と。誘ふ。辨する。舟本草壁の。後小同。頓て
打の準備あり。その夜子の刻。過る。頃城中の先。う。武者を。千騎を
と。駐ち。密に打と。うけり。康俊思。國小敵。欺き。特別。量る。小
今。名。寄。の。陣。頭。小。進。づ。ね。ん。と。士。卒。等。小。下。知。て。か。陣。後。夜。の
軒。火。で。使。と。り。し。え。折。り。も。烈。し。き。夜。嵐。小。猛。火。炎。と。燃。上。る。城。上。の。敵。は。死
周章。と。し。張。り。ち。消。え。んと。騒。動。を。時。分。な。ら。せ。と。一。同。小。開。て。出。と。作。り。う。け。

火で消えんとす。難人等。矢を切伏せ。薙倒。當る。後。僥倖。切て。思。れ。ハ
と。何。時。の。間。小。敵。や。入。り。け。ん。漂。蕩。と。て。討。と。る。と。皆。一。宿。小。逃。巡。ら。せ。殺。て
ま。向。ふ。め。の。い。る。斯。と。い。ち。ら。舟。本。草。壁。寄。の。陣。へ。押。寄。せ。開。せ。作。り。え
攻。懸。り。縦。横。小。切。て。入。る。寄。の。陣。の。縁。へ。も。遠。身。の。から。せ。不。意。討。て。心。の
釋。り。返。り。と。控。へ。る。敵。思。ふ。圍。へ。来。り。し。く。驚。破。蕩。ま。す。と。い。ふ。程。を。あ。れ。
前後左右より。逃り掛り。敵を真中。小使を責む。寄を。案。小。相。遠。し。て。
敵。の。難。儀。小。及。ぶ。折。り。城。の。方。で。見。え。る。小。黒。煙。天。を。焦。し。炎。十。方。へ。飛。散。り
け。ま。へ。と。い。ふ。城。の。落。け。る。よ。と。戦。ふ。へ。死。義。場。も。多。く。一。先。返。り。と。動。靜。を。え
む。と。馬。の。鼻。を。引。向。て。城。邊。に。く。案。付。ま。す。と。い。ふ。敵。入。替。り。わ。る。と。い。ふ。種。の
旗。籠。番。と。櫓。の。上。小。次。飛。き。城。門。を。ひ。ら。け。て。旗。を。振。り。教。へ。射。り。な。れ。と。い。ふ。邊
寄。ん。と。多。り。難。く。退。く。ん。と。す。ま。六。後。より。宿。軍。逃。回。り。返。來。り。進。退。の

度どて夫つまふりのひごらる。日ひ来きの頼たの母ぼく思おもひしりふら軍ぐん兵へい等ら。まま教しやくと小こ落らく失して。
備び代だい恩おん顧ごんの部ぶ役やくのま。百ひゃく六む十じゆ騎きを遺いりけり。斯かくて六む軍ぐんも成なりじ。いいを一方いつぱうを
蒐すい破ぱけり。九州きゆうしゆうの方かた人ひと落おち延のび大だい将しやうと一いつつ小こああららんと死あ物もの枉かたひひ一いつ條じやうの路ぢを索もと
めんと馳せせり。宿しゆく軍ぐんああまま速すみ速すみり中なかつふ路ぢを問とふ。一いつ人ひとも残のこり付つきけり。
舟ふね木ぎ輝ひ義ぎ馬ばを射いちり。歩あままふ成なりて働はたらきけり。周しゆう防ぼう八はち國こく風ふうの帝てい使し若わ國こく
丁ぢやう八はちととささり合あ。竟や小こ組ぐみ敷しきまま射いちり。草くさ壁かべ良ら連れんこれこれこれこ見みて難がた合あひひ
懸かりんんよよの腹はらを切きんんととささり。如ごとく河か波は守しゆ保ぼ瀾らんの執しやく事じ。桂けい兵へい清せい落らく合あひひ
生な捕とらせせああららけり。鳴な呼こ大だい内ない分ぶんが智ち謀ぼう小こ周しゆうててささり。由よし強かう敵てきと関せきをを。舟ふね木ぎ
草くさ壁かべ忽たち地ぢふ。一いつ朝あさの露つゆと消き失しく。防ぼう列れつ平へい定ぢやうふ及およびけり。

平将門退治圖會 五終

